

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 からふる		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 22日		～ R8年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	R8年 1月 20日		～ R8年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年間指導計画・月案・週案を立て、1年間を通して子どもたちに身につけてほしいことを見通しながら活動を組み立てている点が強みです。	季節や子どもたちの様子に合わせて活動内容を調整し、日々の取り組みが年間の目標につながるよう職員間で意図を共有しています。	活動後の振り返りを大切に、子どもたちの変化に合わせて計画を見直していくことを続けていきます。
2	保育士、児童指導員、作業療法士、言語聴覚士など、さまざまな専門職が在籍し、それぞれの視点を生かして子どもたちを支援できることが強みです。	日々の関わりの中で気づいたことを共有し、必要に応じて専門職が意見を出し合いながら、子どもに合った関わり方を考えています	専門職どうしで情報を共有する機会を今後も大切に、子どもに合った関わり方をその都度相談しながら決めています。
3	毎日、職員同士で子どもの様子や支援について振り返り、気になることをその日のうちに話し合える体制が整っています。	小さな変化も見逃さないよう声をかけ合い、日々の関わりが同じ方向に向くように確認しながら進めています	話し合った内容は毎日の記録にも残り、みんなで共有しながら支援に生かしていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容や支援意図の伝わり方について、より分かりやすい共有方法を検討していく必要があります。	送迎時の短い時間での説明となるため、内容が十分に伝わりにくいことがあります。	連絡帳やお便り、掲示など複数の方法を組み合わせて情報提供を行います。
2	活動の様子を知る機会について、より良い方法を検討していく必要があります。	日々の支援の流れの中では、活動の様子を直接見ていただく機会が限られることがあります。	保護者の方が知りたい内容や方法について意見を伺いながら、活動の様子をより伝わりやすく共有できる方法を検討します。
3	支援内容や活動意図の説明について、職員間で表現をそろえていく必要があります。	共有の機会が限られるため、伝え方をより統一できるようにしていく必要があります。	職員同士で伝え方を確認し合い、分かりやすい説明ができるよう工夫していきます。